

俳諧秘傳ちり道集卷之下

^ 5
4654
2



門 へ 5
 號 4654
 卷 2

俳諧近道卷之下目録

一	四季詞の事	二	四季詞の事
二	四季詞の事	三	日夏の部
四	日秋の部	五	日冬の部
六	六句表の巻は方	七	八句表の巻 <small>片千句 本三會古法</small>
八	巻は方多し	九	付句は信の事
十	句教并去離迫り	十一	日用多し人分
十二	春正花 <small>去の分</small>	十三	夏正花 <small>去の分</small>
十四	春正花 <small>去の分</small>	十五	夏正花

昭和十六年一月十一日
 尼野貴英氏贈



十六	秋正花	十七	冬正花
十八	雜正花	十九	雜正花 <small>此種のみ</small>
二十	正花論	廿一	此正花
廿二	春此月	廿三	夏の月
廿四	秋の月	廿六	此夜分秋の月
廿六	此月字秋の月	廿七	冬此月
廿八	雜此月	廿九	月字者此月分
三十	去秋二季後相分	卅一	去秋二季後相分
卅二	夏冬二季に流る	卅三	去春二季後相分

卅四	春夏秋冬二季後相	卅五	四季に流る相分
卅六	日字別吟	卅七	短冊の書法
卅八	懐紙の法	卅九	執筆の法
四十	端紙の書法	四十一	今席忌詞
四十二	金席心得の事		
假字はくしん大意 音韻用合假名及圖			
くしん	中のわ	くしん	くしんのむ
鶴のへ	中のえ	あぐのふ	あぐのふ
くしんのふ	中のと	あぐのふ	あぐのふ

〇下

つはのきいね	うふのきいね	志らずらの濁
つのみと略と	んじのまより	音のつゆ
夜重開合	互音	

俳諧近道卷之下目録終

一四季詞寄ハ事

ちよきしより諸おつとも物とまき
 ちよきしより京少とまきと田舎ハ
 ちよきしより日本少とまきと
 ちよきしより故契とまきとおのく
 ちよきしより書持とまきとむらり
 ちよきしより益ちよきしより大内少とまき
 ちよきしよりあつらせし行司おはまきと

くりしをかはしるるも地下乃
 か白ふ好人くいふもあふも
 あをいほし一用はしる業にうい
 むきののそと名おこしとて倒し
 海をめぐりて後よるやぬと左も半
 際さくたやううりあふ由流乃
 事とれも撰とけ教

四季詞寄

二春之部

正月

正月 脱月 親練まふめをなむまき月とつよん
 大即月 親練おとを帝とつよを月のみとつよん

元旦

元旦 年始 けとこのま けとこのま
 年始 けとこのま けとこのま

このけしめ
 けとこのま
 けとこのま

着水

着水 神まみ 四方神 とく徳神

恵方

恵方 相門の神 松門松 松の門

伊連

伊連 祓人 齒祭 かけ綱

具足條 グクモク びんきり ビキリ 齒固 カク 右著 ウチ

雜灸 サウ 芋次 イモカシ 夜人 ヨルヒト ひんきり ヒキリ 方 カタ 儀奠 ギコ

押結 オシムス 屠獲 トロウ 大舌 オホゼツ 蓬菜 ホウサイ 吟 イン

田はくろ けいこう けいのこ 檟 ハシ 踏老 フミヤシ 撰 セン 吟 イン

祇園削 ギエンセウ け神変 ケシケン 白作 シラシヤク 多原 タハラ 木 キ

少 オホ 男 オトコ 福 フク けり ケリ 福 フク 善 ゼン 元 ゲン 善 ゼン

年 ネン 玉 タマ 破魔 ハクマ 弓 ユミ 取 トル 宿 ヤク 佐 サ く ク 玄 ゲン 引 ヒキ 之 ノ 引 ヒキ

やりの羽子 速 ハヤ 赤 アカ ぶ ブ り リ く ク 玄 ゲン 引 ヒキ 之 ノ 引 ヒキ

荒 アラ 心 ココロ 三 ミ 毛 モウ け ケ 免 メン 湯 ユ 敷 シキ 始 シ

季 キ 初 ハジメ 舟 フネ 玉 タマ 矢 ヤ 初 ハジメ 高 タカ 初 ハジメ 鶴 ツル

初 ハジメ 爰 ココ 後 ノチ 去 ク 年 ネン 一 イチ 初 ハジメ 芝 シ 居 イ

初 ハジメ 曆 リキ 誠 マコト 筆 ヒツ 松 マツ 雜 ヤミ 儀 ギ

子 コ 案 アン 去 ク 約 ヤク 大 オホ 忌 イミ 家 カ 儀 ギ 儀 ギ

僂 ライ 俣 ハイ 師 シ 追 オヒ 心 ココロ 之 ノ 儀 ギ 記 キ 之 ノ 儀 ギ

麻の字を和判イヌル 子 コ 節 セツ 節 セツ 節 セツ 節 セツ

水 ミヅ け ケ 夜 ヨ 夜 ヨ 着 キ 多 タ 物 モノ 連 レン 儀 ギ

裏白通シロヒ初ハツ子コ日ヒ 子の日 子の日

小松コマツ 子の日 子の日

おひ菜オヒナ おひ菜 おひ菜

七日ニチ正月シツゲツ 七日 正月

松マツ肉ニク 松肉 松肉

美面富ミツトモ実ミ 美面富 美面富

おさオサ おさ おさ

細ホソ 細 細

後ノチ 後 後

店タナ 店 店

嬰オウ 嬰 嬰

御ミ 御 御

凍コウ 凍 凍

解トク 解 解

下シタ 下 下

下シタ 下 下

下シタ 下 下

下シタ 下 下

下シタ 下 下

下シタ 下 下

麻アサ 麻 麻

風カゼ 風 風

おオ お お

細ホソ 細 細

後ノチ 後 後

店タナ 店 店

嬰オウ 嬰 嬰

御ミ 御 御

凍コウ 凍 凍

解トク 解 解

下シタ 下 下

香子カネ 鳥トリ 本キのノ香カ トトとトえ

くクぐグらラ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

よヨらラぐグ萩ヒ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

ふフれレのノ香カ 香カ子シ 香カ子シ 梅ウメ

白シロ梅ウメ 香カ子シ 香カ子シ 梅ウメ 川カハ柳ヤナギ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

二月

夜ヨ交カ交カ 香カ子シ 香カ子シ 香カ子シ

二日祭

初午

吉野の解紀初日 二日祭 初午 東福寺

せんぼく 初午 春日祭上申 大原野及示上申

園并韓神祭 上申日 比良八道 花の結

二月孝ひ 遠近絶 佛のふれ

福ふ孝ふ 会日 積壇 十六日 あつまつり

真福ふ孝ふ 会日 積壇 十六日 あつまつり

治平酒 社日 二月の

おぼの成の日くつしめい 是はよまり 社日

あつまつり 七日 天王寺 聖靈會 廿一日 貝よせの

風の風 少聖法 廿一日 茶子の供日

道明ふふ 廿八日 彼屋 蚊穴といはる

尊化しヶ 康角 徳尾の尊

白尾の鳥乃巢 古系 くる特 雛

まきすく 鳴鳥狩 廿一日 鈴たう 燕

つえき 村燕 かねよる かんやう 澤

わらわ 一のちきり 雲雀

下

八

○
○

○
○

鴛鴦ウヰウヰ 鴛鴦ウヰウヰ 駱鳥カウ 花ハナ 子コ 蝶テフ こころ

芙蓉フヨウ あけのこころ 芙蓉フヨウ あけのこころ 蝶テフ あけのこころ

蛇ヘビ 地チ 子コ 陽炎カゲロウ 橘ダイダイ の意イ 橘ダイダイ

るさかば いし 糸イト 初ハツ 綱ツナ 観カン

紀キ 飯イヒ 蛸タコ 雛ヒナ の子コ 田螺タニシ 初ハツ 雷カミナリ

神カミ 梅ウメ 紅ベニ 梅ウメ 花ハナ 花ハナ 花ハナ

神カミ 花ハナ 神カミ 花ハナ 花ハナ 花ハナ 花ハナ

系イト 梅ウメ 松マツ 松マツ 松マツ 松マツ 松マツ

燒ヤク 地チ 細コ 萩ハギ の枝エダ 田タ 步フミ

田タ 步フミ 細コ 萩ハギ の枝エダ 田タ 步フミ

麻アサ 苺イチゴ 獨ドク 活カツ 蕨ワラビ 松マツ 花ハナ

花ハナ 花ハナ 花ハナ 花ハナ 花ハナ 花ハナ

蓮レン 花ハナ 蓮レン 花ハナ 蓮レン 花ハナ

蓮レン 花ハナ 蓮レン 花ハナ 蓮レン 花ハナ

茶チヤ の花ハナ 大ダイ 根コン の花ハナ 筋スジ 鬼オニ 筋スジ 苜モウ

海ウミ 雲クモ 菊キク の花ハナ 風カゼ 巾キン 紙シ 扇アヒ

○
○

○
○

二のちり

三月

三月 陽暦三月一日から三月三十一日まで

巳の日れり

上の巳水色くしてくると夜あてのどくもくもくや三月三日と申す

曲水の宴

三月三日 桃のさけ しのり

鶺鴒台上巳

鶺鴒のさけ しのり

雛

雛干 雛のさけ しのり

伊予

伊予のさけ しのり

粟津祭

粟津のさけ しのり

三月十日 水尾祭

神楽

三月十一日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十二日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十三日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十四日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十五日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十六日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十七日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十八日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月十九日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月二十日 水尾祭

水尾祭 神楽

三月二十一日 水尾祭

水尾祭 神楽

田氣ウツク 藤フジとよ 藤生フジノヒ 郭ホトキスの巢ス

鳥トリの巢ス 鳥トリの巢ス 鳥トリの巢ス 鳥トリの巢ス

麦ムギの穂ホ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

梅ウメの枝エダ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

大オホの枝エダ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ 柳ヤナギの葉ハ

落石花乃ぬし 花守 梨歩花

白牡丹 山吹 躑躅

木瓜のむ 沈下花 木蓮花 赤菊花

あまひ乃む 杏の花 蕨花 小梅花 小梅の花 庭櫻

了碎木む 林檎乃む 桜乃む

柿乃む 楊梅のむ 東の花 楸乃花

連翹 莖 菜むぬく 母子草

蓮むす 芍薬 桔梗 五加

あまつき 紫橋 紫菀

あつまふ角 かつら 菊 さくら草

九尾草 金鳳花 ちまみ 丁子草

肩他りの花 虎杖

仙翁草 山葵 三葉草 茗荷竹

三月草 三月大根 赤花

符脊

二二
二二

二二

入る花 キンギン 薔花 ヒナ 薔花 ヒナ 薔花 ヒナ 薔花 ヒナ

山笑 ヤマウツ 山笑 ヤマウツ 山笑 ヤマウツ 山笑 ヤマウツ 山笑 ヤマウツ

花 ハナ 花 ハナ 花 ハナ 花 ハナ 花 ハナ

永日 ナガヒ 永日 ナガヒ 永日 ナガヒ 永日 ナガヒ 永日 ナガヒ

三 夏之部 ナツノベ 三 夏之部 ナツノベ 三 夏之部 ナツノベ 三 夏之部 ナツノベ 三 夏之部 ナツノベ

四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ

四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ 四月 シゲトキ

夏 ナツ 夏 ナツ 夏 ナツ 夏 ナツ 夏 ナツ

衣 キ 衣 キ 衣 キ 衣 キ 衣 キ

白 シロ 白 シロ 白 シロ 白 シロ 白 シロ

風 フウ 風 フウ 風 フウ 風 フウ 風 フウ

茶 チヤ 茶 チヤ 茶 チヤ 茶 チヤ 茶 チヤ

筑 ツク 筑 ツク 筑 ツク 筑 ツク 筑 ツク

摩 マ 摩 マ 摩 マ 摩 マ 摩 マ

山 ヤマ 山 ヤマ 山 ヤマ 山 ヤマ 山 ヤマ

日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ 日 ヒ

水 ミヅ 水 ミヅ 水 ミヅ 水 ミヅ 水 ミヅ

石 イシ 石 イシ 石 イシ 石 イシ 石 イシ

大 オホ 大 オホ 大 オホ 大 オホ 大 オホ

尚宗系 ムササキ

上酉 河内

梅文系 ウメノミヤ

上酉

杜本系 トリノモト

上申 河内

平野系 ヒラノ

上申

尚广系 ムサノヒロ

大和

多賀系 タカガ

上巳 江州

八洲系 ヤシロ

辰

山科系 ヤマノシナ

上巳

大神系 オホカミ

卯

筑摩系 ツクマ

一日 江州 筑摩系 一日 江州 筑摩系 一日 江州 筑摩系 一日 江州 筑摩系

山崎系 ヤマザキ

七日 水尾系 ミヅノオ 七日 水尾系 ミヅノオ 七日 水尾系 ミヅノオ 七日 水尾系 ミヅノオ

新田系 ニジノタ

大和 是の間の文の文なり 友等とちりえを秋をわらわ

山科系 ヤマノシナ

上巳

多賀系 タカガ

上巳

杜本系 トリノモト

上申 河内

梅文系 ウメノミヤ

上酉

松尾系 マツノオ

上酉

浴佛 八日 仏生を
浴に
龍のきき
又香あり
つじ仏より

戒壇寺開帳 八日 山門右
カキ
カキ

山崎系 八日 地土系 九日 吉田系 中子
ヤサキ
チシユ
ヨシダ

稲荷系 中卯 八幡系 中卯 向日神社系 中辰
イナリ
ハチマツ
ムカウ

久世系 中巳 菅文系 中午 中山系 中酉
クセ
スデノミヤ
ナカヤマ

賀茂系 中酉 只系と斗てて及季よみ
カモ
チカ
あひかつら

柗系 忌竹系
サカキ
イミタケ

日吉まつり 中酉 山王 尚摩法事 十日 中卯 忌日
ヒヨシ
ヤマウ
タモホウジ
チカ

三枝系 中卯 千園子 十日 三井子 母神
サイグサ
チノエ
センエン
ミヅノ

日光系 十七日 花供 廿日 野山弘法大師の
ニツクワウ
ハナキ
ノノ

初日吉系 廿九日 京大佛ノ南ニ 余花 残花
ニイヒヨシ
キョウダイブツノミナミニ
ヨコハナ
ザンクハ

松あぶり 上卯 酒と煮る 麦秋 茶せん麦
マツ
ウエ
カケ
マキ
アキ

芋種系 秋 芋の干 苔の花 牡丹 名丸系
イモ
ウエ
ホク
コケ
ボクタン
ナマル

ふりこみ系 花比王 芍薬 薔薇 杜若 かなし花
フリコミ
ハナヒ
シヤクヤク
キキ
カキ
カナシ

菱系 二葉系 からあつ花 玉巻芭蕉
アヲヒ
ニハヤ
カラアツハナ
タマキ

玉巻葛 一八 薔尾 薔薇 風車
タマキ
クハス
イチハツ
シヤガ
キキ
カキ
カキ

卯花ぐざ方 ウツハナ みどり夜 ヨ 一夏 イチナツ

互に 互に 互に 互に 互に 互に 安居 安居 のろい

五月

さつこ 早苗月と略していふを

賀茂豆拔 一日 松糸 十日 心とく物

苜蒲茸 十日 賀茂乃競馬 五日 くら

菘菜糸 五日 焙午 五日 あやめ茶 セツク

葛蒲 長さ根 さいふゆ さいふゆ さいふゆ さいふゆ さいふゆ さいふゆ

かきり かきり 粽 かきり 芦ちまき かきり ちまき かきり

芥人 カ のろい のろい 茶 茶 のろい のろい 長命繻 長命繻

茶日 五日 茶茶摘日 茶茶摘日 茶合 茶合 たうせ たうせ 茶 茶

菊乃美 菊乃美 仍 仍 室の明糸 室の明糸 今宮糸 今宮糸 ぬ社糸 ぬ社糸

住吉河田極 廿八日 大原志 廿八日 山田河田扇 山田河田扇

祇園山奥洗 晦日 夏至 五月 半友生 中

富士垢雑 垢雑 初憚 初憚 考者を入 考者を入 五月 五月

梅のふ 梅のふ ついであか ついであか 梅の肉 梅の肉 志 志 外 外

○近下

一三

一四

藻の花 もろり 萍の花 ウキクサ 和布 カル

百合 ユリ ひめゆり さゆり えうごゆり かのこゆり

茨の花 イバラ さるとり 花 ハナ 紅の糸 ベニ まついた

紫陽子 アサギ 忘草 ワシラ くろん草 志もは シモハ 糸 イト

石菖 セキヤウ いそあやめ 芍薬 シャクヤク 反菊 ハンキク 射干 セタン

金銀花 キンギン 忍冬 覆盆子 フクセン 本いちご 赤いちご

天葵 テンキ 芍薬 シャクヤク 破柴茶 ハクサイ かごみ

新茶 シン 古茶 炒麦 チヤウ 炒麦飯 麦の粉

子 コ 芍薬 シャクヤク 芍薬 ハクサイ 芍薬

浮瓜 ウレ 白瓜 于瓜 コウ かり カ 菊 キク 菊

生胡桃 ナマ 未央 ミウ 芍薬 ハクサイ

花 ハナ 柿 カキ 橘 キウ 芍薬 ハクサイ 芍薬 ハクサイ

山 ヤマ 柘子 シロ 花 ハナ 芍薬 ハクサイ 梅 ウメ 梅

杏 コウ 枇杷 ヒバ 山 ヤマ 芍薬 ハクサイ 芍薬 ハクサイ

千日紅 センニチ 芍薬 ハクサイ 女 メ 田 タ 芍薬 ハクサイ 芍薬 ハクサイ

田 タ 田 タ 芍薬 ハクサイ 芍薬 ハクサイ 芍薬 ハクサイ

六月

廿四日

五月廿三日 至極 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

五月廿三日 五月廿三日 五月廿三日

山王サンノウ祭マツリ 八月九日
はらく修多シユダ祭マツリ 十月十日
祇園キエン祭マツリ 十月十一日

糸イト祭マツリ 十月十五日
博多カクマ糸イト祭マツリ 十月十六日
伊勢イセ糸イト祭マツリ 十月十七日

高定カキヤウ 十月十六日
相國寺シヤウクニジヤウ懺法シヤンボウ 十月十七日
志波寺シハジヤウ祭マツリ 十月十七日

石段イシドウの源ヒナ 十月十九日
富士フジ詣マユル 十月一日
富士フジ市イチ 十月四日

富士フジ音ネ流ル 十月九日
富士フジ名ナ初ハツメ 十月十日
熟ウケ竹タケ切キリ 十月十日

洗ソウ掃バウ 十月九日
座ザ広ヒロ祭マツリ 十月十日
屯ア岩イハ子コ日ヒ詣マユル

梯ハシ立タテ祭マツリ 十月五日
天アマ沼ヌマのノ淨ジヤウ穢ケガレ 十月五日
住スミ吉ヨシ乃ノ淨ジヤウ穢ケガレ 十月一日

賀カ辰チ水ミヅ之ノ月ツキのノ能ノウ 十月一日
住スミ吉ヨシ乃ノ淨ジヤウ穢ケガレ 十月一日

廣カ修ラ末シ 十月一日
大オホ穢ケガレ 十月一日
夕ユフ穢ケガレ 十月一日
川カハやヤ川カハ

糸イトのノ代カタ 十月一日
茅チノのノ穢ケガレ 十月一日
茅チノのノ穢ケガレ 十月一日
夏ナツ神カミ乐ラク

はくハクひヒとト雲クモ 十月一日
腐クサ草クサ管カンとト雲クモ 十月一日
あアとト日ヒ

夕ユフ之ノしシ 十月一日
之ノ伏フク 十月一日
立タテ秋アキ才サイ一イツ庚コウ子シ伏フク也ヤ 十月一日

云ド周ユウ干カン 十月一日
扇アヒキ 十月一日
團ダマ扇アヒキ 十月一日

汗アセ拭ヌグヒ 十月一日
風カゼ薫カホるル 十月一日
戸クドのノもモ 十月一日

簟タタミ 十月一日
凉スズメ 十月一日
日ヒ傘カサ 十月一日

竹タケ夫人ハツメノ
抱アハきキ
月ツキ涼スズメ
油アブ涼スズメ

いづこ

泉

流水

新井

六月ニサト

水飯

麻地酒

酒

酒油

心太

昔水

于飯

らゆ

煮汁

冷酒

心や皮

まら

まら

糖とほく

まら

梅漬

子桃

楊梅

李

林檎

百日紅

榎子

山

花

石

蓮

白蓮

白蓮

沃深

河骨

菱

蒲の穂

海松

苳和布

竹皮取

藺

日

鉄仙

眼皮

陵

草

虎尾

風

ほ

玉簪

麒麟

鬼

麻

交

江

さ

茗荷

葛乃花

後

香需散

和中散

らん

氏

新

中

新

氏

さ

十八

近

近

毒^{ムカヒ}逆舟^{フネ} まの か^カう^ウた^タま^マ櫓^ロ もみちの

三星^{サンセイ}屋形^{ヤカガタ} 秋^{アキ}さり衣^{サリイ} ひと星のまて 乞巧^{キクウ}奠^{テン}

乾の糸 夜のまま 芋^{イモ}の糸^{イト}乃^ノ家^ケ お乾の風伝し芋の家

櫓^カの糸^{イト} 櫓の糸 飛鳥^{トビ}井家^{イノイ}七夕^{シツセキ}鞠^マ 七日

本御門^{ホンゴ}跡^{アト}花^{ハナ} 七日 ま西むらさき 文珠^{モンジュ}會^{カイ}

池坊^{イケボ}立花^{タテバナ} 七日 孝^{コウ}入^{イリ} 逆の 文珠^{モンジュ}會^{カイ}

八日 六道^{ロクダウ}系^{ケイ} 九日 逆港^{ギャクカウ} 六道 文珠^{モンジュ}會^{カイ}

聖霊と 清水^{セイスイ}子^コ日^{ニチ}借^カ 十日 中元^{チュウゲン}日^{ニチ} 十五日

生^{イキ}玉^{タマ} 蓮の 孟^ウ茶^{チャ}茶^{チャ}盆^{ボン} 盆の

魂^{タマシ}ま^マけ^ケり 魂 枝^{エダ}ま^マめ 枝

燃^モ火^カ 燃 枝^{エダ}さ^サげ 枝

耀^{ホト} おと 小^コ町^{マチ}お^オと^トり 小

遊^ユり火^カ 遊 三^{サン}井^イ寺^ジ女^メ詣^キ 十五日

花^{ハナ}火^カ 花

は^ハと^ト入^イ は

あ^アう^ウけ^ケ茶^{チャ} あ 清^{セイ}霊^{レイ}の^ノ出^デ 十八日

近下
三十三

快哉クワイ系ケイ 正マサ村ムラ山ヤマ系ケイ 相アイ撲ウツ 角万丸 过すやふ

稻イネ妻メ 涉ワタるル暑アツ 秋アキ風カゼ 初ハツめメし

文フミ一ヒトじジ いやイヤか 扇アブキ抄ステるル 露ツユ

勢セキ 勢のきき 勢のの海 勢のまゝ人 勢のまゝ川 勢のまゝ

木キ槿キ 系ケイ花ハ 秋アキ海棠トウ ねネとトこコへヘ

女メ房フをヲ 終アハりリふフ 夕ユフ白ガホ実ミ 櫛シ之ノへヘ

萩ハギ 小萩 萩の下あ 糸萩 小萩のもし 蘭ラン うららるる 芭蕉ハヤシ

小車コクルマのノ花ハナ 桔キ梗キョウ 萩ハギ 萩ハギのノ上ウヘ ねネ撲ウツ系ケイ

仙セン之ノ羽ウ花ハ 鏡キョウ子シ系ケイ 葉エフ師シ系ケイ びビ切キ系ケイ

曼マン珠ジュ沙シャ花ハ 三サン七シチれレをヲ 紫ムラサキ金キンのノをヲ

菱ヤクモ母モ系ケイ 茗メイ荷カのノをヲ 芥カイ子シのノをヲ

遠エン冠クワンをヲ 絲シ瓜カ 西セイ瓜カ 芥カイ子シのノをヲ

たタとトのノをヲ 苳ヒ麻マ子シ 蓮ハスのノ美ミ花ハ

本ホン瓜カ乃ノ美ミ 根ネのノをヲ 紫ムラサキ心シンのノをヲ 紫ムラサキ花ハ

急イハのノとト草クサ 又マタ稻イネ 燒ヤキ系ケイ やヤぶブ入イ七シチ月ゲツ

秋アキのノ故コ 涉ワタるル露ル 秋アキ胡コ蝶テフ じジ色シキ

〇迎下

檀ホウ 赤らんぼくトシ せんまもんシヨク 秋はむしシヨク

松マツ げんゲン 虫ムシ きりぎりすキリギリ ともじトモ

くつクツ ちチ 糸イト たくタク 虫ムシ 楠カマ 陰キナ 虫ムシ ちチ せセ

むム 合カ みのミノ 虫ムシ ちチ 藻モ ちチ ちチ ちチ ちチ

いイ ちチ こコ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ

冬フユ 蛸タコ 稻イヌ 虫ムシ 田タ 虫ムシ 遂スエ ちチ ちチ ちチ ちチ

綴ズエ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ ちチ

初ハツ ちチ ちチ 吹フキ ちチ 吹フキ ちチ 吹フキ ちチ 吹フキ ちチ 吹フキ

八月

系キ 朕シテ 系キ 系キ 系キ 系キ 系キ 系キ 系キ

八ハチ 朔シヨク 田タ 面メン 虫ムシ 田タ 面メン 祝イハヒ 佐サ 行コト 忌イハヒ

神カン 泉セン 苑エン 祭サヒ 水ミヅ 村ムラ 祭サヒ 泉セン 二ニ 日ニチ 灸ウツ

堺サカイ 天テン 神カン 祭サヒ 少シウ 女ニョ 祭サヒ 白シラ 鬘マン 鬘マン 帳テウ

放ハウ 生シヨク 會エ 阿ア 野ノ 津ツ 八ハチ 幡フタ 祭サヒ 宇ウ 佐サ 祭サヒ

老ロウ 浦ホウ 祭サヒ 志シ 賀カ 八ハチ 幡フタ 祭サヒ 宇ウ 佐サ 祭サヒ

第ダイ 一イチ 祭サヒ 安ヤス 井イ 祭サヒ 月ツキ 月ツキ 月ツキ 月ツキ

月のツキノ 月ツキ 月のツキノ 月ツキ 月のツキノ 月ツキ 月のツキノ 月ツキ

〇近下

〇下

〇三十五

月のついで 夕月 月夜 月の様子 月の光 月の影

月のついで 月の影 夕月 月の様子 月の光 月の影

いさよひ 亥中 亥中 亥中 亥中 亥中

のちり月 くらり月 くらり月 くらり月 くらり月

菅大臣祭 菅大臣祭 菅大臣祭 菅大臣祭 菅大臣祭

榮名糸 後の徳名 後の徳名 後の徳名 後の徳名

新田姫 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉 芙蓉

木犀花 蒲葎 蒲葎 蒲葎 蒲葎

むら 花燈 花燈 花燈 花燈

紫花 月 月 月 月

草 草 草 草 草

風仙花 鶏爪花 鶏爪花 鶏爪花 鶏爪花

沢桔梗 通草 通草 通草 通草

〇三十五

〇三十五

〇三十五

〇三十五

一ノ

二ノ

苗香の交 鴨上戸 鴨尻 冬尻

辛 牡丹のけね 芍薬のけね 芍薬のけね

辛 羊の毛 羊の毛 羊の毛

蕎麦 菜塔 胡豆蓬川 芍薬

刈安 本まゝのえが 若菜

鬼燈 菜塔 けしき 芍薬

衣 鴨 鴨 鴨

川 鴨 鴨 鴨

稻 雁 雁 雁

小鳥渡 小鳥渡 小鳥渡

小鷹 小鷹 小鷹

うばらな 小鷹 小鷹

麻 小鷹 小鷹

太刀 小鷹 小鷹

太刀 小鷹 小鷹

太刀 小鷹 小鷹

一ノ

二ノ

初経 江経 稗 小経

野分 初汐

新蕎麦 新米 新箱 田

田舎 稲 稲子

木絨刈 栗刈

茶山子 沼み 川板

つ子 水

九月

七月 秋の七草をいふ
九月 きのの月といふ

学もの 裕 桂乃宮すむ

舍利會 重陽

礎 新布

浄香文系 生玉系 一文系

四宮系 下考ね系 南祿系

例幣 六珠玉系

○五下 ○二十七

太秦祭

廿二日 牛祭

白河祭

十三日

寶の市

十三日 佳吉 外ヲ買アリ

十二夜

豆名月 月の名所 栗名月 二枚の月

ほ乃名月

後の月

栗田口祭

十五日

思勝祭

東山

岩倉祭

小山

天王寺念佛會

日

神田の神祭

式列

長湊祭

江列

小念祭

日

山口祭

中巳午 田防

波去新孝會

十六日 介文イセ 十七日 内文イセ

御祭

イセ

あやん祭

十七日 ば盆池田

くれたまり

十八日 日池田

久世祭

十九日 西ノ京

婆利女まつり

廿日 ち辻宮町を

城守神祭

廿日 上らるね 竹田ニアリ

八幡花乃

廿日 化り有

橋立ひと祭

廿日

流祭

天沼瀧流馬

廿日 大坂

木幡祭

廿四日

原谷祭

同日 逢坂祭

水山祭

廿六日

津村祭

廿七日 福神祭

野々祭

廿八日

野々祭の別

桂川の枝

菅笠まつり

出かりまつり

廿九日 菊まつり

金めわさ

廿日

廿一日

廿二日

大白

廿三日

廿四日

廿五日

の途下

の二十ハ

紅葉 モミジ いろちる りちる 梅り ウメ いろちる いろちる

楓 カエデ いろちる いろちる 合飲木 カヘキ の紅葉 モミジ

名本 メイボク いろちる いろちる 柞 ハシ 標 ヒシ 柅 ヒシ

色か イロカ いろちる いろちる 鴨脚 イモ 本乃 ホンノ 実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 栗 クリ いろちる いろちる 梨 リ いろちる いろちる

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ いろちる いろちる 榎 ツグ いろちる いろちる

菜黄 サイワウ 蜜柑 ミツカン 三入 さんじゅう かん 久年 くねん 母 ぼ

柚 ユ いろちる いろちる 系列 ケツリ 福 フク 佛 ブツ 旗 ハタ

柿 カキ いろちる いろちる 榎 ツグ いろちる いろちる 榎 ツグ いろちる いろちる

柿 カキ いろちる いろちる 榎 ツグ いろちる いろちる 榎 ツグ いろちる いろちる

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

-5 190 35 870" data-label="Text">

榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ 榎 ツグ の実 ミ

〇三十一

〇三十一

野ア萩ハ 秋アキ 踊マユ

仙セン 蓼レウ

うらり色

茶チ 桔キ おゆりし 秋アキ

秀ス ちチ 内ナ

志シ けケ 入イ 茶チ

芦ア 花ハ あしのか 草クサ のノ 花ハ

紙シ 茶チ 花ハ

あア ひヒ 茶チ アキ

えエ やヤ みミ 茶チ アキ

まマ もモ 茶チ

老ラウ 母モ 茶チ

おオ しのシノ のノ ちチ ちチ あかき

文ブン 豆トウ

油アブ りリ あぶら ひく

迷ミ 猫ネコ 晩田

草クサ 狩カウ

平ヘイ 子シ 茶チ あかき

ねネ すス ちチ ちチ あかき

木キ のノ 子シ あかき

初ハツ 子シ 茶チ

松マツ 露ロ 深カシ かくカク 新シン 酒シユ

古コ 酒シユ 中ナカ 々々 ぶフ ぶフ 酒シユ

小コ 曝ハク 江エ 鮎アサ さうい のノ

尾ビ 越エ 乃ノ 鴨カモ

細ア 代シ 抄ウツ

とト みミ ちチ 鮎アサ 露ロ けケ けケ あかき

肌カ さサ じジ

衣ヨ 衣サ 衣サ あかき

漱セウ けケ けケ

うウ 衣サ 衣サ

冷ス 一イチ 痛シ けケ 心シン 麻マ

徳トク 栗リ のノ 棚ナ かくカク

新シン 纒マキ あかき あかき

衾フ 小コ あかき あかき

秋アキ 深フカ さサ 冬フユ ちチ りリ さサ あかき

冬フユ さサ 衣ヨ

暮ボ 秋シ あかき あかき

任ニ 者シヤ 神カミ 送ウツリ あかき

九月ク 尽ジン

〇三十一

〇三十一

(五) 冬之部

十月

法神出まへ送らん又いつ時再きあき三月
小正月 法神出まへ送らん又いつ時再きあき三月

冬立 冬夜 友の夜とを乃
法神を出まへ送り
五の夜とを乃
送らんをん
お若本へ送らん

冬立 冬夜 友の夜とを乃
法神を出まへ送り
五の夜とを乃
送らんをん
お若本へ送らん

十夜 五日の
真福寺はたな 六日 維廣忌
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

全毘羅宗 十
御新嘗 十
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

念ひす達 誓文拂
大社神事 中支 神の爲
送らんをん
お若本へ送らん
五の夜とを乃

の魚下

の魚上

かたまり 煙火

沙菊

かび

ころも

いろり 火おけ

いろり

茶丸口

くれ 村

くれ

川

霜 木

霜

茶丸

木

木

茶丸

柳

冬木の標

か

枯尾花

菊

茶丸

松の屯

松

茶丸

茶丸

冬牡丹 フユボナン 八ふれ花 ヤツテ き菓 カンキク 石菓の花 ツバハ

ぬりたれ カ 山賊 ヤマノクサ 小芸 コゲイ 萱草 クキ 大根 ダイコン

荳 マメ 荳 マメ 大根 ダイコン 荳麦 マメコ 麦 ムギ

初雪 ハツユキ 初氷 ハツヒ 漆水 カシ

月 ツキ 月 ツキ 細代 ホソヨ 柴炭 シヤウタン

子鳥 コトリ 村 ムラ 磯 イソ 濱 ハマ 夕 ユフ 夕 ユフ

水 ミヅ 水 ミヅ 鴛鴦 ウヅマツ 鴛鴦 ウヅマツ

鴨 カモ 鴨 カモ 鴨 カモ 鴨 カモ

本免 ホンメ 本免 ホンメ 本免 ホンメ 本免 ホンメ

納豆汁 ナトウシユ 鱈 ウラハ 鮭 サケ 炭竈 スミカマ

綿 ワタ 綿 ワタ 綿 ワタ 綿 ワタ

蒲團 フダン 蒲團 フダン 蒲團 フダン 蒲團 フダン

紙衣 カミ 紙衣 カミ 紙衣 カミ 紙衣 カミ

次中 ジキウ 次中 ジキウ 次中 ジキウ 次中 ジキウ

冬かき人 フユ 冬籠り コモ 小窓団 キタ 若芋 ユキ

若恒 ユキ 神逆 カミ 卅日

十月

若月 シギ 若のうづ月といふ也

朔旦冬至 ツキ 一陽來復 イツ 梅文系 ウメ 上卯

山科系 ヤマ 上巳 平野系 ヒラ 上申 春日系 カスミ 同日

杜木系 ツギ 同日 富广系 トヨ 同日 率川系 スベ 上酉

富宗系 トヨ 同日 中山系 ナカ 同日 松尾系 マツ 同日

大系 オホ 中子 園并 ソノ 韓神系 カン 中丑 吉田系 ヨシ 中西

日吉系 ヒヨシ 同日 相堂系 ソウ 上卯 大和

宗像系 ムネ 上卯 新堂會 ニウ 中卯 豊明前會 トヨ 中辰

小忌衣 コ おまの袖 日かけの系 ヒ 日かけの

日吉能附乃まほり ヒヨシ 中申 三徳園の市 サン 中酉

加茂能附の系 カモ 下酉 子系 コ 子の日 吹草系 フイ 八日

初玉は徳かたこと ハツ 十三日 空也忌 クウ 十三日

鉾つを ハチ 廿二日より 大所儀 オホ 廿二日

天台大師 テン 廿七日 宇賀系 ウ 卅日

下

山神祭 サンジン 里神乐 サトカクラ 庭火 ニハビ 神楽の意ふとく

神火烧 カクラ 神楽 カクラ 神楽の意 カミ 神楽の意 ウタ

大茶 フホサイ 張 ハリ 小さいもの 高茶 高茶 高茶 高茶

顔見世 カホ 髪 カミ 髪 カミ 水 ミヅ 水 ミヅ 水 ミヅ

冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ

あ ア あ ア あ ア あ ア あ ア

太山 ミヤマ 太山 ミヤマ 太山 ミヤマ 太山 ミヤマ

人 ヒト 人 ヒト 人 ヒト 人 ヒト 人 ヒト

鷹 トビ 鷹 トビ 鷹 トビ 鷹 トビ 鷹 トビ

冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ 冬 トウ

初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ

石 イシ 石 イシ 石 イシ 石 イシ 石 イシ

初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ 初 ハツ

杜 カサ 杜 カサ 杜 カサ 杜 カサ 杜 カサ

士 シ 士 シ 士 シ 士 シ 士 シ

温 ウン 温 ウン 温 ウン 温 ウン 温 ウン

大 オホ 大 オホ 大 オホ 大 オホ 大 オホ

大徳寺開山忌

廿二日

雪

名まらけ
名こり

名おこし

名佛
名たるま

名不てい
名師
名けり

名はくして

名の肌
名の骨

名の若
名の鹿
名の志

名香

名車

名機
名氷柱

氷

凍

名眼

はれ

名寒の入

寒

寒

名子

名梅

名造

名箕輪田鯉

名若鳥

名孟宗竹

名八月鱧

名ぬくめ鳥

名玉子酒

名茶

名庭鳥交合

名蕎麦湯

名金海

名年貢納

名札納

名煤掃

名餅搦

名夜配

名せ

名迷

名か

名不

名か

名不

新

三

曆コヨミの末スエ 出をこつる曆 こよみより 三冬フユ 三ツル

年トシ本キころ カト松マツ立タツ家ケ 妻ハルと隣ナリ 妻とわ

豆マメ分ブン 豆うら 豆まく たりタリとト身ミ 摸ツの

柀ヒラキとト尾ビ 柀うら 柀のひら 厄ヤク拂ハラヒ 厄おろ

追ツイ催メ おにやむい おにやむい 耆ヨシ田タのノ大オホをヲくら 耆か

立タテ降ケル天アメ使ツケ系ケ おけ 大オホ原ハラにニ雑サカ噉コ寐ミ 雑か

年トシ内ウチ立タテ春ハル 小コ晦モロ日ヒ 大オホ二ニ十ジュウ日ニチ 忌イカ見ミ

斎サイ文フミのノ終ハヤシるマ 表 和ワ布フ刈カのノ神カミ更マシ 形カの夜丑刻

祇園ギエン刈カりけの神事

晦の夜寅乃刻にけりし

年トシの梅ウメ 白シロく 少オホく 少オホく 切キじ

とトのノ枝エ とトのノ波ナミ とトのノ能ノリ とトのノ尾ビ とトのノ言コト とトのノ終ハヤシ

とトのノ言コト とトのノ果ミ とトのノみミ とトのノ終ハヤシ とトのノ言コト とトのノ言コト

とトのノ本ホ とトのノ末マシ とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト

とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト とトのノ言コト

六 六句表卷

表尾 經方仙之法

○ 彼仙の首尾 是ハ表仙の初表と終りの裏と合する所のあり

表六句 五句め月 裏六句 五句め月

○ 經方仙之卷

表八句 七句め月 裏八句 七句め月

二表八句 七句め月 二裏八句 七句め月

是ハ中古の形はさうに降りもふささハ
題日并 吾人の月次ハ自他乃 吾人乃
て月但表まざる今ハ法必一統と通用

ての事外とさす月さる人ハ但折經と表

分仙と此經方仙ハ同表入句と三句と表

表表と二句と免しハ中表表ハ經方行

分仙乃長表乃ハ中表表ハ作者の記し表

是ハ世間通用の表表ハ分仙と表ハ及

有るなり中表ハ色ハ然行分仙ハ

表ハ一ハ名ハ色ハ經方仙長分仙ハ

分仙のハ一ハ色ハ然行分仙ハ

○ 經方仙之卷 經方仙ハ一ハ色ハ然行分仙ハ

近下

表六句 八句め月

裏十二句 七句め月

二表十二句 十一句め月

二裏六句 八句め月

右表抄した重の八句め月秋とどく
ましくい短句の月と成表を厚く
めと鉄とけくい十一句め花とく
ふはまのするめ月の定知と
つゝい表をの月又い月とじとく

○源氏の巻

表六句 八句め月

裏十二句 七句め月

二表十二句 十一句め月

二裏十二句 七句め月

三表十二句 十一句め月

三裏六句 八句め月

⑦ 八句表巻

ろく尾 四十四 ち多仙 又十負
七十一代 百負子 千句 古式 念法

○百負の首尾

是の百負の初表と終りのうら
合するものなり

表八句 七句め月

裏八句 七句め月

○四十回巻

表八句 七句め月

裏十四句 九句め月

二表十四句 十一句め月

二裏八句 七句め月

○長祓仙の巻

○下

○上

表八句 七句め月

表十六句 十一句め月

二表十六句 十一句め月

二表八句 七句め月

是又中^{ナウコ}右の新法^{シホ}し^シ後^カ分^カと^カ對^カし^カる^カ名^カ之^カ
又^カ十^カ貨^カと^カ後^カの^カ部^カと^カり^カぬ^カ所^カ十^カ句^カも^カ一^カ部^カの^カ
部^カ合^カあ^カし^カる^カ時^カ海^カに^カく^カる^カと^カ云^カふ^カく^カち^カく^カは
海^カの^カく^カり^カて^カも^カ不^カ成^カ

○五十頁の巻

表八句 七句め月

表十句 九句め月

二表十句 十一句め月

二表十句 九句め月

○七十二候の巻

表八句 七句め月

表十句 九句め月

二表十句 十一句め月

二表十句 九句め月

三表十句 十一句め月

三表八句 七句め月

○百韻之巻

表八句 七句め月

表十句 九句め月

二表十句 十一句め月

二表十句 九句め月

三表十句 十一句め月

三表十句 九句め月

名表十句 十一句め月

名表八句 七句め月

○十百負ハ右十巻ノ

○千句ハ右十座ノ一巻ノ遠者 セロト 有り

○本式會古法 今ハ兼且表合ホモルメナク

表ハ十句ニ 多クハ五七 表ハ六句ニ リハ口付

八 巻は音も

表ハ句 むたりのみと場を他はるに出り銀ノと

津低。釈教。憲。を常。遊懐。懐回。名所ハ

○お奴句 んお奴らちうひく詩ノ起ノヨク

四季ノとに 去ハヤツ となぐも 遊云に長

ハク一性 ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

しつ ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

出ヤ ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

変 ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

よ ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

波 ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

ち ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

遠 ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

風 ハクハ俗法ハ名其不認古事ハ

備漢をれづん。しつゝの修治もらふ
去中、風種者くも、誠のふらるゝ

○騷へ其ふらりのは、たぐも詩人、漢り
後りの心と、遠く、客をふ、亭に、
ちく、のきふ、と、た、く、こ、ま、と、り、
い、く、約、字、も、と、て、文、字、と、て、
て、ふ、と、し、る、ハ、侍、候、に、と、ち、ら、
○、詩、に、詩、人、は、わ、く、ま、の、
た、と、く、さ、め、て、い、の、の、
て、ふ、と、し、る、ハ、侍、候、に、と、ち、ら、

文、白、く、遠、く、法、多、く、
葉、と、ぐ、て、
上、七、文、字、の、修、り、
と、め、か、れ、や、か、
か、て、の、と、め、
あ、は、是、と、
○、
す、く、
と、ら、
と、ら、

史一^{カキ}と^{ラフ}記^ス後^ノ皆^ガ撰^ル其^ノころり^ノの必^キ抄^リめ^シ
仰^ルうしもし^ズ一^ノ百^ノ負^ツとも^ナら^ズる^ノ乃^ハ撰^ルあ^リと^ス
法^ハ分^ク後^ノの付^クう^キを^シね^ハと^リゆ^ハん^ク

○入^ルりめ^シを又^タ入^ルりめ^シゆ^リと^スし年^ノの終^ニゆ^クと^ス
文^ノ通^リハ^シ抄^リ之^ノ表^ノの目^ヲあ^シう^キ一^ノ一^ノ終^ノ撰^ルと^スじ^シ

○六^ノ白^ノめ^シえ^ハハ^シ白^ノり^ノ白^ノり^ノ一^ノ一^ノ

○七^ノ白^ノめ^シ月^ノの定^ル座^ヲち^カり^ハ信^ト口^ヲ季^ヲせ^タり^トと^スじ^シ

月^ノ也^ハころ^シ時^ハハ^シ此^ノ所^ノ雜^リまり^ハ秋^ノ乃^ハ後^ノ白^ノの付^クら

宵^ノ三^ノす^キど^ニじ^ニ必^キ日^トと^モと^ス然^レも^ハ一^ノ十^ノ雜^ヲと^スる

又^ハ復^スを^シな^ドち^カり^ハゆ^ハん^クと^スへ^クと^スほ^ク一^ノの^ノし^シ
一^ノ卷^ノの^ノや^ハし^ハ十^ノ卷^ノ十^ノ也^ナり^ハり

○八^ノ白^ノめ^シも^ハ六^ノ白^ノり^ノ白^ノり^ノ一^ノ一^ノ

○右^ノ六^ノ白^ノ表^ノの付^ク入^ルり白^ノり月^ノ乃^ハ定^ル座^ヲ撰^ルと^スし

は^シ七^ノ白^ノめ^シの^ノ抄^リし^キと^スじ^シ信^ト口^ヲ季^ヲせ^タり^トも^ハ月^ノが

出^ルと^スハ^シ抄^リハ^シ秋^ノ二^ノ白^ノも^ハゆ^リと^スべ^シ決^スと^ス二^ノ白^ノづ^ク

一^ノ一^ノと^スる^ノ乃^ハと^スる^ノ一^ノ一^ノも^ハ月^ノお^ラと^スと^スく^ハ花^ノなり

ほ^クゆ^ハり^ハ時^ハ月^ノ夜^ノ一^ノ一^ノに^ハし^キと^スぶ^ク乃^ハと^スる^ノ長^ク抄^リめ^シ

と^スと^スり^ハ又^ハ復^スを^シな^ドの^ノ月^ノと^スと^スる^ノ抄^リめ^シと^スは^シ

四季一臥るらん捨るらん月花乃花
家通又ハ海多みり身に城若く後
折るに花の折紙小枝の葉の
遠くは月花紋少くそあそび張の
笑む白たふ綴紙の余らんを
あそびの功者へ送るらん
あそびと考ふるらん

九 付句仕様の事

付句の水の流るらん
あそびと考ふるらん

必交りまをきた又むらん
一巻を余らざらん一巻を
面白き次は又いふも
せんともらん
見らん
そのえ下
表の
上
を
し

下

三

今昔多し三句乃流形もかまひと三句のうささ句と
好む人多し百負ふ百句たさしくいふやと秀吟
くるとも付かざるさひ付合の句といふれす
たよの秀吟の機句と付あくるるるる

十句教 去 嫌 近 道

○同季五句去 以 耕 子 くらに 句

秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
花 花 花 花 花 花 花 花 花 花
一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句

○憲 二句より三句とけくむ一白くく在 拾 句 五句去

○神 祇 秋 教 幸 常 述 懐 懐 旧 山 類 水 意
君 臣 枝 叶 生 秋 多 秋 穠 神 財 分 表 名 支 神
有 二 句 分 皆 三 句 去

但 枝 叶 木 系 竹 生 秋 虫 虫 虫 虫
右 加 加 小 品 加 加 二 句 去 去

○人 倫 降 物 後 平 名 百 百 名 合 秋
天 相 書 類 云 徒
右 二 句 去 去 也

十三 春正花 枝の二つを分

花の類 むしほりるよき 花の種 むしほり

むしほり むしほり 花の種 むしほり 花の種 むしほり

花の種 むしほり 花の種 むしほり

十四 春正花 枝の二つを分

花の種 むしほり 花の種 むしほり

十五 夏正花

花の種 むしほり 花の種 むしほり

花の種 むしほり 花の種 むしほり

十六 秋正花

花火 むしほり 本流 むしほり 花の種 むしほり

十七 冬正花

花の種 むしほり 花の種 むしほり

十八 雑正花

花の種 むしほり 花の種 むしほり

花の種 むしほり 花の種 むしほり

十九 同 枝の二つを分

花の種 むしほり 花の種 むしほり

花の^{スカタ}詠 花^{ハナ}尊^{イロ}以^イ備^イく ひろく ^ト燈^チ音^ネ

どの^エ縁^ヱ衣^イ花^{ハナ}う^ウつ^ツ不^フ 花^{ハナ}衣^イ 被^カ 花^{ハナ}の^ノい^イま

葉^ハの^ノ花^{ハナ}香^カ カ花^{ハナ}纏^カ カ上^ウ カ灯^チの^ノい^イま カせ^セひ^ヒら

花^{ハナ}毛^{モウ}纏^{セン} 花^{ハナ}皿^ズ カ花^{ハナ}衣^イ カ解^トの^ノい^イま カ備^イく

② 正花^カ傳^{デン}

花^{ハナ}も^モ様^{サマ}あ^アら^ラに^ニあ^アら^ラな^ナら^ラん

と^トた^タ家^カの^ノ花^{ハナ}海^{カイ}の^ノい^イま カい^イま

あ^アら^ラな^ナら^ラん カ余^ヨの^ノい^イま カい^イま

い^イま カい^イま

① 北^キ正^{テイ}花^カ

花^{ハナ}の^ノい^イま カい^イま カい^イま

い^イま カい^イま カい^イま

② 春^{ハル}月^{ツキ}

月^{ツキ}花^{ハナ} カ月^{ツキ} カ花^{ハナ} カい^イま

③ 夏^{ナツ}の^ノ月^{ツキ}

月^{ツキ}の^ノい^イま カ月^{ツキ} カい^イま

い^イま カい^イま カい^イま

い^イま カい^イま カい^イま

うゆ 亥中 万葉 天押おんそとの

⑤ 花をれ月

さげ月 月の光 月のさゆり

⑥ 雑の月

香月花 花の月 月の光

公の月 月の光 月の上日

⑦ 月のまかり月 月の光

月夜 月夜 秋の月夜

⑧ 春秋二季 春の月

やぶ入 びうりり 二日炎

あまのまじ 野ノ 古式二季

右 後 月夜 秋の月夜

あまのまじ 野ノ 古式二季

あまのまじ 野ノ 古式二季

あまのまじ 野ノ 古式二季

あまのまじ 野ノ 古式二季

あまのまじ 野ノ 古式二季

あまのまじ 野ノ 古式二季

月夜

月夜

世一 夏 振 二季 に 海 の とも の

後 夏 也 此は夏のうらなをいふ二季のともは夏と

世二 夏 多 くと 夏 と 海 の とも の

平野 杜 本 中山 川 海 戸 梅 の 突

右 乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

と 乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

夏 乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

夏 乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

世三 夏 乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

カスガノミ 園 韓 神 奈 大 魚 野 奈

此 乃 二 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

乃 委 と 四 月 と 夏 月 と 夏 二 季 夏 乃 委

ほろくこころを新や柳り清き足籠
年の末のあつらひや初まけ際迄

従子の山より望む日比谷より人の地の静し備

大木ののおとろけをまじいどと年々名跡と

おしむる波をたはせぬまじい魚のたはし

例の狸屋のあつらひ其の静けさを強いにし

世五 四季より後をい

春の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

結 結の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

案

移 移

春の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは
五二七 月よは花の白くは又花の白くは又花の白くは
移れは白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

世五 四季より後をい

春の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

夏の花の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

秋の花の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

冬の花の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

但花の白くは花の白くは又花の白くは又花の白くは

世六 月字別吟

二五

二五

春日ニ去ル日也。龍巖ニ坐す。深院ニ
菊を南と名も。龍波ニ波。上戸ノ戸
百合、百十合也。

右何事もくくくくくくくくくくくく
ふどくくくくくくくくくくくくくく
たかしくとくくくくくくくくくくく
必かふくくくくくくくくくくくく
案くくくくくくくくくくくくくく

⑦ 經典乃書法

龍一行小一系えとくくくくくくく
まままままままままままままま
経典のどにくくくくくくくくくく
まままままままままままままま

⑧ 懐希乃法

りくくくくくくくくくくくくくく
まままままままままままままま
改く懐希乃法
まままままままままままままま

近世

近世

下より字中と落しつらん

○ 俳筆之法

○ 合。去極ハ其年の冬鹿山合を遠近
遷東の人今も多之吟多ク阿る者も少な
一存沈。或は新後に後多ク又余をげらる
遷西の人少を出る事ありあふ白
出るも人のあはれはなうく行かん
一有かん出るともあつらんさうは懐かきと毎夜
くつ返しく去極と改しぐらうと詩の
そんく其余とそん尾もいそべ

そんく其余とそん尾もいそべ

○ 俳作之法

俳諧と連歌と書古法も。古代俳諧
歌仙。百韻と句教小芝人といふも多
連多しと賤物と取しつらん俳諧といふ
織物と取しつらん 哉おもひのりふれふ
一季の名目と俳諧の書多しと取しつらん
連多しの古法といふも俳諧の事多し詩歌
連俳と四家小部といふも俳諧の事多し

○ 近世

○ 近世

かゝつてもヨロシび之の一字とイやくシつトし

① 會席忌詞之事

○ 婚禮ウヰのスふカ。ふカきシ。勝カ。切カ。とスあスく

去サル。汝ニと。モトト。ぼトまト。おトどトのト。

○ 遊ウ告コのシ會ケに。鬼オニ。地チ獄ゴク。室シム。味アジ不

流ルむ。身ミ。化カ物モノのト。

○ 新ニ宅タクのシ會ケに。焼ヤク。りリ申シ。ほホとトまトらトれト。

○ 多タ良ラおオのシとト。乃ノ子コノト。

○ 天神テンジン奉ホウ納ナウふ。終シュウ云ウンのト。

○ 後カミ孟キえゲン服フクに。後カミ切キ。解ワケ後カミ。兀ハあハとト。

○ 後カミ孟キえゲン服フクに。裸ハダカ。遊ウとト。

○ 後カミ孟キえゲン服フクに。紅ベニとト。

右ミダ余ヨ々々かカとト。とト。

其コノ花ハナのシ母ハハ中ナカとト。女メとト。河カハありアリ。老コウ人ニンの

前マエとト。老コウ人ニンのト。老コウ人ニンのト。老コウ人ニンのト。

揚ホウ生セイとト。揚ホウ生セイのト。揚ホウ生セイのト。揚ホウ生セイのト。

白シロとト。白シロのト。白シロのト。白シロのト。

りリのト。移ウツりリ。移ウツりリ。移ウツりリ。移ウツりリ。

一

一

石お魚けりる句ときりしめしどし

⑤ 會席の侍の事

第一小敷物とたぐいばあぐりくひくひと
いふの程と并へ給侍世らのうらと
酒自に撰のもた。飽よと合道面く
破夜くまそりま式をわ小考とんかき
藤眠あらひ。珠敷らり而作あどと
腐。とせらとまりしやと夜紋ら
り杖つと足とそ。目鼻。松木際ま

のし。ゆふふあどあてよつ
のし。ゆふふあどあてよつ
一順も海ゆふあどあてよつ
たしあゆへし。禁句松句あつ
名ふ。ま名の句。あつ。あつ。あつ
らゆり河まときり。句の夜は
をゆりしとえら。又をまひ
ゆりしとえら。又をまひ
執事とゆへい。あつ。あつ。あつ

〇五十六

〇五十六

少くもまゝをこぼして流るる下ふる人あはさばびびく
 けしと懐紙も及古く成るる。さういふ合ら
 枕草が汲く。句の空想と宗面が法部
 志くく。懐紙もるる。若のさし。今うとん
 蕉門は長編く。さうとも。又。中。時。候。さ
 句。作。と。心。ぬ。ら。う。く。枕。草。の。び。こ。さ。て
 月花の産もつらうと。あなう。人。か。う。ら。ん
 句。較。多。く。汲。く。人。の。句。難。く。な。ら。う。と。付
 あまう。人。さ。ま。と。終。く。さ。う。く。常。り

系句とあう。うの人ふ。さ。さ。う。あ。ど。か。後
 い。く。地。乃。句。う。う。う。あ。ま。う。く。く
 う。多。に。麻。衣。受。さ。う。は。厚。く。ふ。く。う。さ
 従。万。句。千。句。一。は。口。傳。法。度。書。あ。り
 月。次。は。は。ら。う。か。く。は。く。く。地。門。へ
 對。く。蒲。と。ん。く。く。地。へ。ま。う。ら。う
 くらけ。か。つ。く。理。屈。か。く。は。ら。う。座。乃
 宗。匠。小。万。半。は。ら。う。く。く。又。く。た。の
 辞。儀。さ。う。く。さ。ま。り。ら。か。の。人。和。と。洞。入

〇五七

〇五十七

入す字ハ^ス之^テノ十^キ行^カお^サ色^ツ一^ツ様^ノ入^行お^通に
ち^のく^こら^る香^よ海^入と^ちし^く作^{まる}
いろハ^の字^ヲセ^まハ^ひふ^ハカ^の文^ヲま^りわ^か
ら^ぬれ^ばふ^かふ^やあ^らく^は其^ミひ^やう^ヲ神^ト
つ^らし^らと^大や^しと^しめ^きら^るの^もく[。]
交^ふゆ^とと^とじ^じる[。]か^まつ^らの^法あ^らさ^と
あ^らく^と假^カま^はし^らの^品ま^まと^とお^らま^たの[。]
ふ^とと^月要^とと^とく[。]具^旨いろ^は乃[。]
四^十七^とま^とと^とし^らく[。]は^るに^くづ^きみ^く

○大^やい^ろハ^の二^王の^うみ^あく[。]
か^まづ^らの^はと^とと^とら[。]の^二ま^はみ^とな[。]
た^のと^とと^とと^とと^とと^とと^とと^とと^とと^とと^と
二^つら^らる^後と^一中^にお^くか^どり^も
色^ハ隆^ノ散^ク去^ルヲ[。]我^世誰^ゾ
有^ク。有^ノ奥^山人^テ越^テ。
浅^キ夢^ヲ不^見。彼^モ不^為
あ^らゆ^の河^はゆ^らり

三十一

三十一

○日本音韻開合假字及

マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア	開
ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ	開合
ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ	合
メ	ヘ	子	テ	セ	ケ	エ	開合
モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	ヲ	合
	重脣	輕脣	舌	舌	齒	牙	喉
			齒				
							開淺

ヤ	ラ	ワ	ア				
イ	リ	井	ム				
ユ	ル	ウ	フ				
エ	し	エ	ト				
ヨ	口	オ	フ				
喉	舌	喉	音				
	舌		音				
開合		深合	開合				
淺合			深音				

アロヤ喉。タ舌。カ牙。サ齒。ウ羊舌。
 ナら半齒。ハマと唇音。
 ○この約の中はいくほのち同まよし。
 なるやうにふるまふとをいふ。
 九十字文の終りありし。

し

し

○いふかきくくえんま 是ヲアイウエヲカ
いふかきくくえんまヤイエヨノ行と云ふ
○いふのまにらうと云ふ

アウエオの中のいふのまにらうと云ふ
いふのまにらうと云ふ。運。重。よ。ま。ら。う。と。云。ふ。
らうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。
ウエオの中のいふのまにらうと云ふ。東。教。や。と
まのトふらう。オのちぎとまにらうのま
又割のトふらうと云ふ。あつとらうと云ふ。おど

ちりくつとらうと云ふ。ト云ふ。
○いふのまにらうと云ふ。音のまにらうのまにらう
らうと云ふ。いふのまにらうのまにらうと云ふ。
た。いふのまにらうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。
○いふのまにらうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。
いふのまにらうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。
らうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。いふのまにらう
アウエオの三行と云ふ。始の始の。中ト云ふ。
いふのまにらうと云ふ。いふのまにらうと云ふ。

いふのまにらうと云ふ

いふのまにらうと云ふ

○アイウエヲ アヨリイウヲ生
 イヨリエヲ生一ウヨリヲ生
 あの一文字と音の移るは人の口と
 娘を必あのかき入る少唇と接
 るとてでんじぬ。又唇と合ると
 又いふ音をかき入るは江より
 りの音と接して入るは十行を
 皆あつては音のまじりては
 もつりては音のまじりては

○とて一は一は一は一は一は一は

部カシのカシ又の訓の中又つ下ふそふふ
 ○部カシのカシ又の訓の中又つ下ふそふふ
 又一又因印カシひ優カシ多カシ祀カシ繼カシ部カシ戒カシ又々
 皆カシ交カシ清カシ静カシ 又々一のまじりては
 ○トカシふカシくカシきカシふカシふカシふカシふカシ 就付カシツカシイカシテカシ樂カシ
 娘カシシカシキカシのカシらカシいカシはカシイカシキカシシカシチカシニカシのカシおカシおカシくカシ
 ○中カシのカシかカシるカシりカシのカシまカシじカシるカシ也

一字の部又ハ訓の下一者をふとるハ字に見

部

部

○一字神々^井堅^井隆^井井^井のたらしむ^井
しそか^井をくら^井又○訓の下ふ^井をくら^井
くら佐あお^井益^井たま^井わ^井魂^井か^井の^井さ^井か^井
しじふ^井位^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
○又尹^井雄^井固^井邑^井又回^井會^井永^井り^井くら^井の^井ま^井よ^井さ^井
○わ^井く^井の^井さ^井の^井ま^井よ^井さ^井
訓の下ふ^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
しじ^井飯^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井

○澤のく

ふくら^井家^井中^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
○ふ^井小^井か^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
然^井也^井の^井くら^井くら^井○中^井に^井用^井くら^井くら^井くら^井くら^井
の^井くら^井くら^井○くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
○中^井の^井え^井
くら^井の^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井
○一^井ま^井の^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井くら^井

くら

くら

えさ枝えさふ榊えさら後のみちうら

○ひふまふと越エ代エ添エ焚エのびく

又延年英礎の依字と想とえと用エ

○おくのえ

おりと訓のび下とさしておとをうかよく

○あふ訓のびくふふふふふふふふふふ

○トはけりくふくふくふくふくふくふく

くふふのびく又永御圓澄

○くーのふ

何の中ト下はる怪とあま一字の音と御おひ
ふとさくくととよじとわく

○訓の中ト下はるふとふとふとふとふと

ゆふとむねとやたまらふとむと

○一字の音を訓し用くはふとふとふと

さかひめ徒保姫ふとふとふとふとふと

○中乃と

御のびく怪とあまの字の中ト下んかふと

あふとふとふとふとふとふと

〇川の尻からよよとんま女 あらうよとの小舟
 とらふ〇小舟ととんまね 風のよと風音の歌多し
 〇よみの舟トよがらうもるよとんまをら
 てとの新ちをねちしもの歌あり
 〇てにをはのよとんあべんてとんあを
 〇とと 出とらとらとらと

〇おくののお あまの川の尻一字の御是と
 〇あまのよみの尻とねと男おほん
 おふ鬼かむひたおふせ ねり思の歌多し

〇一字の御とん史 經の歌多し 水尾。
 玉乃結。尾張あし ねの字あり

〇わはの使らやうあはなのりよとん

〇あのは 川の中あしつとんあは。てにそのは
そのまをりよとんあは。あまのやま中トあま
 いとんねちとらる千早振 ねとる終 杯の歌多し

阿波 あは 是は史はとんね はとり 不破。
 阿波 あは 音のねと あまの ねく 果 の歌多し

〇はのり 河の上よま。一字御。一字の音
 河の上 り ねり つ 分り て 終の歌多し

一字のハ 袴 回 うち 固 藤 の り ち たり
一字の 倭 俗 蘇 乃 死 ち たり

○ うふのけうひやうちのうほのふく

○ ぢのうへ ぢのひしゆくのみまをいけ。又んふ
ぢのひしゆくは。又平上去声の若のひまより用ひ

くふをいへま 正ク 遊ク 珍ク 乃るんく

ん 剌友 二途川 三ツツカハ
サウツツカハ

椀子 乃のそく 東冬 唐江
カウ カウ

乃るんくのまぐ

○ ぼのふ けのふ けのふはひまのあをえん生のまうひい

ひくま さぬいけ。若ん今日のそくへふま
ト 嬌へ乃のそく けのま 乃まがま
あさぢふ 湯芽生ののそく

○ 濁るかふおぢ。ずづ。の別

○ 志なけつり始にド虹つとけふどはまのそく

○ ぢら。ぢら 伯父 あんぢら ぢら 筋ぢら 乃のそく

○ づら。いつる出くづ肩まぐ。ぢらづて近のふ

○ ずら。あまずす必くす 葛まぐ ぢらねすま 嵐

たむくはそ。ぢらしけ申出。ぢらまをいへま
イニルカヤ

カクゴトクニナク
りけ 皆く けりちがはし 説考て 志は

キヤウニチウ カイ カク
輕重 存人

ヨシ 存人 存台の 志は 存人 いと ねい 存
われ 志は 多く 存人 存人 存人 存人
口を 存人 存人 存人 存人 存人 存人
唇を 存人 存人 存人 存人 存人 存人
と 存人 存人 存人 存人 存人 存人
たふ 鬼 存人 存人 存人 存人 存人 存人
といふ 存人 存人 存人 存人 存人 存人

スミ
けの 存人 存人 存人 存人 存人 存人
口け 存人 存人 存人 存人 存人 存人

○友音

ナガトコトニシテ 存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人
存人 存人 存人 存人 存人 存人

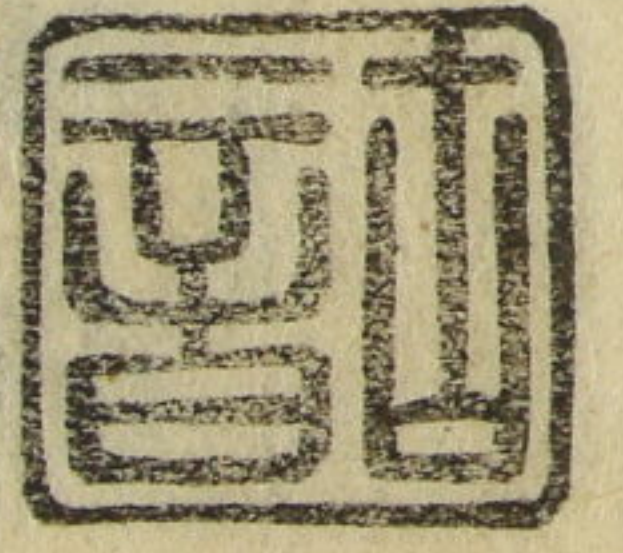
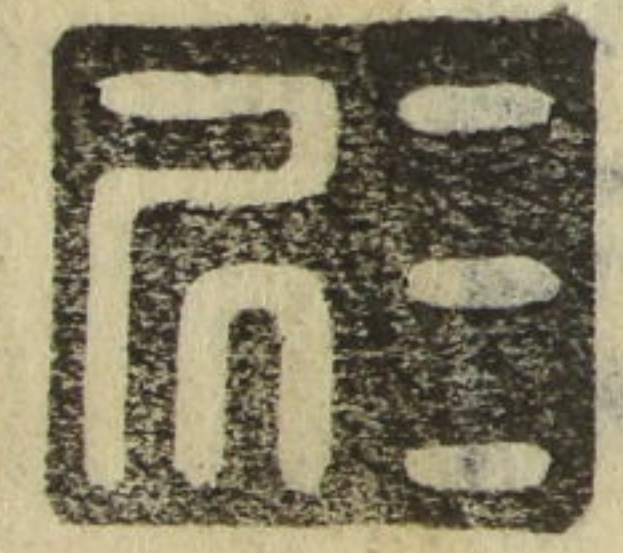
只傳しつゝのそびに記しつゝ
臨ふ諸君と眼じつゝと一帖ふ
此禱の真美と志く命をまじり
りる人志を竟しと人しつゝ
しつゝあつゝふつゝと不執心乃
耳たたふとやとくつゝ教ましつゝ
もつゝつゝとつゝつゝつゝつゝ
独りこれ乃つゝつゝつゝつゝ

功心の導りつゝつゝつゝつゝ
きつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
あふつゝつゝつゝつゝつゝ
他友ふつゝつゝつゝつゝつゝ

子孟春

之居菴

古音



明和五戊子歲春三月

中西卯兵衛

田中庄兵衛

皇都書林

再撰辨

今更りあちりみちる集ハ御留付秘決をあらう次の
ものふるう口交あててハ初心の従のおかつくあき
事しもあるハ預くハ其物をあまよりて事しと
加へる人やお二三子のすむるん辯しこて
は決のあまの事を家のしきよ事さくゆる
預くこ其あまよを細よひちかきりたよきふ
よりきあ人秘交は御留付毛と歌しあま
附添のつ巻とふしぬ

西書

西書



古音先生著目錄

俳諧ちりり大成 二冊

四季の寄切字てんを修

從浩秘事中山元 一冊

法部秘史

古刀銘盡大全 九冊

新刻出來

古刀手鑑 折本一冊

同断

寛政五癸丑年正月

皇都書林

伊勢屋庄助
吉野屋爲八

虚字解

皆川先生著 全二冊

白詩選

全一冊

同 續

同

皇都名勝詩集

全二冊

實字解

同 全三冊

詠物百首

太田玩鷗著 全一冊

淇園詩話

同 全一冊

葛原詩話

全二冊

左傳考

明霞先生著 大典禪師校

小雲樓稿詩及續

大典禪師著

日本歴史略

全四冊

國朝書目

全三冊

皇都書林

御幸町御池下止町

菱屋孫兵衛

